

教育の形は新たなステージへ

子どもたちに一人一台のタブレット端末を導入するGIGAスクール構想。市では、4月から全ての市立小中・義務教育学校で運用を開始します。

GIGAスクール構想とは

文部科学省が推進している計画で、一人一台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、従来の教育と組み合わせるという取り組みです。子どもたち一人一人の個性に合わせた教育環境の実現を目指します。

ICT教育の必要性

現代社会において、ICT(情報通信技術)を基盤とした先端技術の活用は不可欠となっています。グローバル化した社会で活躍するためには、子どもの頃から情報活用能力を身に付けておくことが必要です。

また、国際的な調査を見ても、教育におけるICTの活用が基礎学力の向上に効果的であるという

ことが分かっています。

しかし、日本の教育現場でのICT環境の整備は、ほかの国と比べて遅れています。

誰一人として取り残さない学習を保障するためにも、ICT環境を整えることは急務となっているのです。

なぜ一人一台の端末が必要なのか

通信ネットワークと一人一台の端末があれば、先生は全ての子どもへの回答をその場で確認できるため、子どもたち一人一人の習熟度を効率的に把握でき、よりきめ細かな学習サポートを行うことができます。

また、習熟度をチェックしながら授業の速度を調整するなど、臨機応変に対応することもできるようになります。

ICT化によるメリット

理解度が上がる

画像・映像や音声データを活用することで、授業の内容をより具体的にイメージすることができま。例えば図形の問題では、タブレット端末で図形を動かすことで立体的な理解が深まります。

個々の能力に合わせて学べる

デジタルドリル学習では、習熟度に合わせて問題を変えることができ、それぞれに適した難易度の問題に取り組むことができます。

学習意欲が向上

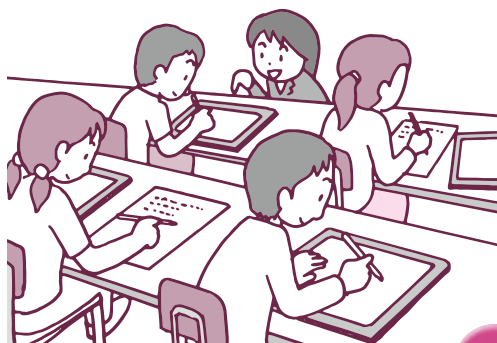
画像や映像を使うことで興味・関心が高まり、学習意欲の向上が期待できます。

遠隔地との交流も

ビデオ会議機能で、ほかの学校や海外の友好都市などをつないで合同授業を行うことができます。



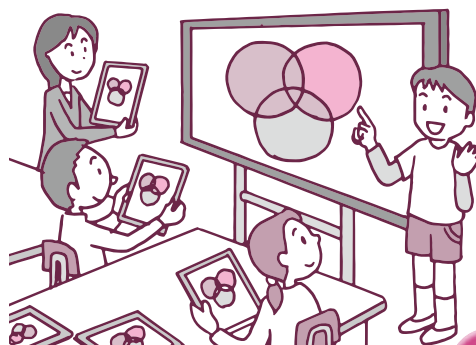
学習風景はこのようになります



課題に取り組む

学校

授業の内容は大型モニターと手元のタブレット端末の両方に表示。課題に取り組むときは、タブレット端末でもノートでも状況によって使い分けできる



みんなで意見を共有

学校

自分のタブレット端末の内容を大型モニターやほかの人の端末で表示できるので、意見を共有しやすい



ドリル学習

学校 家庭

デジタルドリル学習で解答の正誤がすぐに分かる。また、ジャンルごとの正答率も分かり、苦手分野の把握が簡単に



調べ学習

学校 家庭

インターネットで情報収集を行う。発表資料などを作成するときは、画像や動画も活用できる

よくある質問

Q タブレット端末は自宅に持ち帰るのですか

A 子どもたち一人一人にIDとパスワードが割り当てられるので、自宅でオンライン学習を行う場合は、学習内容に応じて各家庭にあるパソコンなどでも作業できます。自宅にパソコンなどが無い場合は、学校からタブレット端末を持ち帰ってもらいます

Q 自宅のインターネット環境を整備するための費用は

A 自宅でオンライン学習を行う場合は、Wi-Fi環境が必要になります。Wi-Fi環境が整っていない家庭には、モバイルWi-Fiルーターを貸し出しますが、通信契約の手続きや通信費の負担は各家庭でお願いします。なお、就学援助認定世帯には補助があります

Q 端末が壊れた場合の修理費用は

A 通常の範囲の故障であれば、修理費用は市が負担します。ただし「故意」または「過失」による故障の場合は本人(保護者)負担になりますので、丁寧に扱うように配慮をお願いします

Q 端末が壊れたらデータはどうなりますか

A 基本的にデータはインターネット上に保存するようになります。端末本体に保存されているデータは使えなくなってしまう可能性が高いですが、インターネット上に保存されているものは消えません。そのため、別の端末を使用する場合でも同じデータを使うことができます

※くわしくは教育指導課(☎20-1582)へ。